

博士論文（要約）

論文題目 フランス近現代史における政教関係の諸相
 ―病院のライシテ化にみる複数性と連続性―

氏 名 田中 浩喜

博士学位請求論文

フランス近現代史における政教関係の諸相 —病院のライシテ化にみる複数性と連続性—

田中 浩喜

目次

序論——本論文の視点と狙い	1
第一部 理論編	22
第一章 ライシテの研究史と定義の問題	23
第二章 ライシテ化と世俗化を区別する	41
第一部の小括	65
第二部 事例編	70
第二部の導入	71
第三章 「追放」と「代替」——パリの病院における「排除型」のライシテ	75
第四章 「監視」と「利用」——リヨンの病院における「管理型」のライシテ	97
第五章 「敬遠」と「協働」——ボルドーの病院における「選別型」のライシテ	115
第六章 「対話」と「監視」——第一期マクロン政権の宗教政策	135
結論	151
文献一覧	156
初出一覧	166
謝辞	167

【注記】

本論文の内容については、使用している他者の著作物（図表等）のうち、インターネット公表に対する著作権者からの許諾が得られていないものがある。具体的には次の図である。

79 頁の図、119 頁の図 1 と図 2、127 頁の図 3、128 頁の図 4

また、本論文の内容については、5 年以内に出版する予定である。
そのため、この注記をもって本文に代えることとする。

文献一覧

- 相沢久 1966『現代国家における宗教と政治』勁草書房。
- アッカークネヒト, E., 2012『パリ、病院医学の誕生——革命暦第三年から二月革命へ』舘野之男訳、みすず書房。
- 阿部美哉 1973「政教分離」小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版会、464-466 頁。
- 池澤優編 2013『東京大学宗教学年報』30(特別号)、東京大学宗教学研究室。
- 磯前順一・深澤英隆 2002『近代日本における知識人と宗教——姉崎正治の軌跡』東京堂出版。
- 磯前順一 2003『近代日本の宗教言説とその系譜——宗教・国家・神道』岩波書店。
- 磯前順一 2008「〈日本の宗教学〉再考——学説史から学問史へ」『季刊日本思想史』第 72 号、9-31 頁。
- 磯前順一 2012『宗教概念あるいは宗教学の死』東京大学出版会。
- 磯前順一・林淳編 2008『季刊日本思想史』第 72 号（特集「近代日本と宗教学——学知をめぐるナラトロジー」）、ペリカン社。
- ウィルソン, B., 2002 (1982)『宗教の社会学——東洋と西洋を比較して』中野毅・栗原淑江訳、法政大学出版局。
- 上垣豊 2016『規律と教養のフランス近代』ミネルヴァ書房。
- 大石眞 1982「ライシテ——その後」『國學院法学』19 卷 4 号、81-113 頁。
- 大石眞 1985「フランス型の政教分離——いわゆるライシテ原理の展開」『宗教法』3 号、105-127 頁。
- 大石眞 1996『憲法と宗教制度』有斐閣。
- オーベール, R. ほか, 1997『キリスト教史 9——自由主義とキリスト教』平凡社。
- カサノヴァ, J., 2021 (1994)『近代世界の公共宗教』津城寛文訳、ちくま学芸文庫。
- 鹿島茂・倉方健 2013『カリカチュアでよむ 19 世紀末フランス人物事典』白水社。
- 栗林輝夫 2004『現代神学の最前線——「バルト以後」の半世紀を読む』信教出版社。
- クレマンソン, A-S., 2008-2009「借地と都市整備——フランス・リヨン市民病院の貸地経営 (1781-1914)」小柳春一郎訳『獨協法学』第 74 号、201-247 頁；第 75 号、137-155 頁；第 78 号、269-302 頁。
- 小泉洋一 1998『政教分離と宗教的自由——フランスのライシテ』有斐閣。
- 小泉洋一 2005『政教分離の法——フランスにおけるライシテと法律・憲法・条約』法律文化社。
- 厚東洋輔 2020『〈社会的なもの〉の歴史——社会学の興亡 1848-2000』東京大学出版会。
- ゴーガルテン, F., 1975 (1953)『近代の宿命と希望——神学的な問題としての世俗化』熊沢義宣、雨貝行磨訳、白水社。
- コックス, H., 1967 (1965)『世俗都市——神学的展望における世俗化と都市化』塩月賢太郎訳、新教出版社。
- 佐藤香寿実 2023『承認のライシテとムスリムの場所づくり——「辺境の街」ストラスブー

ルの実践』人文書院。

佐藤典子 2007『看護の社会学』専修大学出版局。

宗教社会学研究会編 1980『宗教の意味世界』雄山閣出版。

白尾安紗美 2021「アルザス＝モゼルの宗教教育とライシテ——良心の自由と宗教的多元性をめぐる一考察」『年報地域文化研究』24号、55-75頁。

島藺進 2010『国家神道と日本人』岩波新書。

高城和義 1986『パーソンズの理論体系』日本評論社。

高橋原 2008「東京大学宗教学科の歴史——戦前を中心に」『季刊日本思想史』第72号、153-169頁。

伊達聖伸 2007「ニコラ・サルコジの宗教政策、あるいはライシテの行方」『国際宗教研究所ニュースレター』56号、14-23頁。

伊達聖伸 2010a『ライシテ、道徳、宗教学——もうひとつの19世紀フランス宗教史』勁草書房。

伊達聖伸 2010b「ニコラ・サルコジの「ポジティブなライシテ」と市民宗教の論理——2007年から2008年の発言を中心に」『東北福祉大学研究紀要』第34号、249-265頁。

伊達聖伸 2010c「多面体としてのライシテ——政教関係の国際比較のために」『日仏社会学年報』第20号、23-43頁。

伊達聖伸 2010d「2つのライシテ——スタジ委員会報告書とブシャール＝ティラー委員会報告書を読む」『宗教法』第29号、117-141頁。

伊達聖伸 2013「フランスにおける宗教学・宗教研究の歴史的条件と一般的特徴——パリ高等研究院 EPHE 宗教学部門の展開を中心に」『東京大学宗教学年報』第30号(特別号)、159-178頁。

伊達聖伸 2016a「フランスにおける「承認のライシテ」とその両義性——ムスリムの声は聞こえているか」磯前順一・川村覚文編『他者論的転回——宗教と公共空間』ナカニシヤ出版、175-200頁。

伊達聖伸 2016b「ケベックにおける間文化主義的なライシテ——その誕生と試練(上)」『思想』第1110号、6-28頁。

伊達聖伸 2016c「ケベックにおける間文化主義的なライシテ——その誕生と試練(下)」『思想』第1111号、137-154頁。

伊達聖伸 2018『ライシテから読む現代フランス——政治と宗教のいま』岩波新書。

伊達聖伸 2022「聖職者の性的スキャンダルを通して見るフランス・カトリック教会の現状——制度的権威の失墜とカリスマ的権威の失墜」『上智ヨーロッパ研究』第13号、113-132頁。

田中浩喜 2016『現代フランスのライシテ研究——セクト論争とヴェール論争の分析から』東京大学大学院人文社会系研究科修士学位論文。

田中浩喜 2017「現代フランスにおける「公共宗教論」？——ライシテ研究者の議論を比較して」『東京大学宗教学年報』第35号、95-114頁。

田中浩喜 2019「デジレ＝マグローワール・ブルヌヴィルと宗教——病院のライシテ化と宗教病理学」『東京大学宗教学年報』第36号、53-72頁。

田中浩喜 2020「「監視」と「利用」——第三共和政前期のフランス・リヨンにおける病院のライシテ化」『上智ヨーロッパ研究』第12号、167-186頁。

- 田中浩喜 2021「世俗化論の形成過程の再検討——興隆の背景と英米仏での受容」『東京大学宗教学年報』第 38 号、84-98 頁。
- 田中浩喜 2021「神の祭と国の祭——第三共和政初期のボルドーにおける祝祭のライシテ化」『日仏歴史学会会報』第 36 号、21-37 頁。
- 谷川稔 1997『十字架と三色旗——もうひとつの近代フランス』山川出版社 [=2015『十字架と三色旗——近代フランスにおける政教分離』岩波学術文庫]。
- 塚田穂高 2015『宗教と政治の転軸点——保守合同と政教一致の宗教社会学』花伝社。
- ドベラーレ, K., 1986 (1985)「世俗化諸理論と社会科学的パラダイム——収斂理論と拡散理論」『東洋学術研究』第 25 巻第 1 号、1-31 頁。
- ドベラーレ, K., 1990「CISR のヨーロッパにおける宗教社会学のアプローチ——ACSS と CISR とを比較して」檜尾直樹訳『東洋学術研究』122 号 29 巻 2 号。
- ドベラーレ, K., 1992 (1981)『宗教のダイナミクス——世俗化の宗教社会学』ヤン・スィンゲドー、石井研士訳、ヨルダン社。
- 長井伸仁 1999「第 3 共和政期のパリ市議会議員 (1871-1914 年)」『史林』82(4)、37-73 頁 [=2023『近代パリの社会と政治——都市の日常を探る』勁草書房、第 7 章]。
- 長井伸仁 2016「都市化とカトリック教会——ピエール・ランドが見た両大戦間期のパリ郊外」中野智世、前田更子、渡邊千秋、尾崎修治編『近代ヨーロッパとキリスト教——カトリシズムの社会史』勁草書房、199-227 頁。
- 中島隆博 2009「中国における宗教と世俗化——批判儒教のために」羽田正編『世俗化とライシテ』UTCP、91-104 頁。
- 中野毅 2003『戦後日本の政治と宗教』大明堂。
- 中野智世・前田更子・渡邊千秋・尾崎修治編 2016『近代ヨーロッパとキリスト教——カトリシズムの社会史』勁草書房。
- 中野智世・前田更子・渡邊千秋・尾崎修治編 2023『カトリシズムと生活世界——信仰の近代ヨーロッパ史』勁草書房。
- 野口理恵 2016「パリの病院とアウグスティノ会——第三共和制前期におけるアシスタンス・ピュブリーク傘下の病院の世俗化」『人間文化研究科年報』31、39-49 頁。
- 野口理恵 2018『フランス第三共和政前期の女子修道会』奈良女子大学大学院人間文化研究科博士論文。
- 羽田正編 2009『世俗化とライシテ』UTCP。
- バーガー, P. 2018 (1967)『聖なる天蓋——神聖世界の社会学』藺田稔訳、ちくま学芸文庫。
- バーガー, P., ルックマン, Th. 1977 (1966)『現実の社会的構成——知識社会学論考』山口節郎訳、新曜社。
- パーソンズ, T., 1974-1989 (1937)『社会的行為の構造』(全 5 巻) 稲上毅、厚東洋輔、溝部明男訳木鐸社。
- ハーバーマス, J., 2010「「ポスト世俗化」社会の意味するところ」『ああ、ヨーロッパ』三島憲一、鈴木直、大貫敦子訳、岩波書店、105-129 頁。
- 林淳 2008「宗教系大学と宗教学」『季刊日本思想史』第 72 号、71-88 頁。
- 林淳 2016「近代日本の「信教の自由」——世俗化ではなくライシゼーション」『禅研究所紀要』44 号、57-70 頁。
- 深澤英隆 2006『啓蒙と霊性——近代宗教言説の生成と変容』岩波書店。

- 藤原聖子 2005『「聖」概念と近代——批判的比較宗教学に向けて』大正大学出版会。
- フーコー, M., 2011『臨床医学の誕生』神谷美恵子訳、みすず書房。
- 星野靖二 2012『近代日本の宗教概念——宗教者の言葉と近代』有志舎。
- ベラー, R. N., 1973 (1970)『社会変革と宗教倫理』河合秀和訳、未来社。
- ベラー, R. N., 1973 (1967)「アメリカの市民宗教」『社会変革と宗教倫理』河合秀和訳、未来社、343-375 頁。
- ベラー, R. N., 1974 (1970)「社会科学の宗教的意義——社会科学における非合理的要素」『宗教と社会科学のあいだ』葛西実・小林正佳訳、未来社。
- ボベロ, J., 2009a「世俗化と脱宗教化」伊達聖伸訳、羽田正編『世俗化とライシテ』UTCP、15-31 頁。
- ボベロ, J., 2009b「21 世紀世界ライシテ宣言について」羽田正編、羽田正編『世俗化とライシテ』UTCP、61-68 頁。
- ボベロ, J., 2009c (2004)『フランスにおける脱宗教性の歴史』三浦信孝・伊達聖伸訳、白水社。
- ボベロ, J., 2019 (2010)「ライシテ／ライシテ化＝非宗教化」伊達聖伸訳、アズリア, R.・エルヴュー＝レジェ, D. 編『宗教事象事典』増田一夫・伊達聖伸・鶴岡賀雄・杉村靖彦・長井伸仁編訳、みすず書房、692-698 頁。
- ボンヘッファー, D., 著, ベートゲ, E. 編. 1988 (1951)『ボンヘッファー獄中書簡集——抵抗と信従』村上伸訳、新教出版社。
- 前田更子 2009『私立学校からみる近代フランス——19 世紀リヨンのエリート教育』昭和堂。
- 増田一夫 2012「ナショナル・アイデンティティとしてのライシテ——フランス、スカーフ問題の背景」『ODYSSEUS』16 号、59-83 頁。
- マチエ, A., 2012『革命宗教の起源』杉本隆司訳、白水社。
- 松嶋明男 2010『礼拝の自由とナポレオン——公認宗教体制の成立』山川出版社。
- マルティモール, A-G., 1987『ガリカニズム——フランスにおける国家と教会』白水社。
- ライアン, D., 2004『9・11 以後の監視——〈監視社会〉と〈自由〉』田島泰彦監修、清水知子訳、明石書店。
- リヴェロ, J., 2012 (1949)「ライシテの法的概念」小泉洋一訳『甲南法学』第 52 巻第 3・4 号、137-154 頁。
- ルソー 1954『社会契約論』桑原武夫・前川貞治郎訳、岩波文庫。
- ルックマン, Th., 1976 (1967)『見えない宗教——現代宗教社会学入門』赤池憲昭、ヤン・スィングドロー訳、ヨルダン社。
- ロバートソン, R., 1983 (1970)『宗教の社会学——文化と組織としての宗教理解』田丸徳善監訳、井上順孝、対馬路人、吉原和男、渡辺雅子共訳、川島書店。
- ロビンソン, J. T. A., 1964 (1963)『神への誠実』小田垣雅也訳、日本基督教団出版部。
- 渡邊頼陽 2015「ピーター・L・バーガーの初期神学——社会学者の「宗教」、信仰者の「宗教」」『宗教研究』89 巻 3 輯、125-148 頁。

Acquaviva, S., Guizzardi, G., (ed.), 1973. *La Secolarizzazione*. Bologna, Il Mulino.

Anceau, É., 2022. *Laïcité, un principe. De l'Antiquité au temps présent*. Paris, Passés composé.

- Baubérot, J., 1985. *Le retour des huguenots. La vitalité protestante XIX^e-XX^e siècle*. Paris-Genève, Le CERF-Labor et Fides.
- Baubérot, J., 1990. *Vers un nouveau pacte laïque ?*. Paris, Seuil.
- Baubérot, J., (dir.), 1991. *Pluralisme et minorité religieuses*. Louvain-Paris, Peeters.
- Baubérot, J., (dir.), 1994. *Religions et laïcité dans l'Europe des Douze*. Paris, Syros.
- Baubérot, J., 2004. *Laïcité 1905-2005, entre passion et raison*. Paris, Seuil.
- Baubérot, J., 2007a. *Les laïcités dans le monde*. Paris, PUF [=私市正年・中村遥訳『世界のなかのライシテ——宗教と政治の関係史』白水社、2014年] .
- Baubérot, J., 2007b. « La représentation de la laïcité comme « exception française » », in *Cosmopolitiques*, n°16, pp.119-132.
- Baubérot, J., 2008a. *Laïcité expliquée à M. Sarkozy*. Paris, A. Michel.
- Baubérot, J., 2008b. *Une laïcité interculturelle. Le Québec, avenir de la France ?*, Paris, Aube.
- Baubérot, J., 2014. *Une si vive révolte*. Paris, Les Édition de l'Atelier.
- Baubérot, J., 2016. *La laïcité falsifiée*. Paris, La Découverte.
- Baubérot, J., Milot, M., 2011. *Laïcité sans frontières*. Paris. Seuil.
- Baubérot, J., Milot, M. 2014. « Introduction. Laïcité, laïcités : pistes de réflexion et d'analyse », in Baubérot, J., Milot, M., Portier, Ph., (dir.), *Laïcité, laïcités. Reconfigurations et nouveaux défis*. Paris, Édition de la Maison des sciences de l'homme, pp.11-29.
- Baubérot, J., Raphaël, L., 2010. *Sacrée Médecine. Histoire et devenir d'un sanctuaire de la Raison*. Paris, Entrelac [=伊達聖伸・田中浩喜訳『〈聖なる〉医療——フランスにおける病院のライシテ』勁草書房、2021年] .
- Bégghain, P. et al. (éd.), 2009. *Dictionnaire historique de Lyon*. Lyon, Stéphane Bachès.
- Benoit, B., 1999. *L'identité politique de Lyon. Entre violence collectives et mémoire des élites (1786-1905)*. Paris, Montréal, Harmattan.
- Béraud, C., Duriez, B., Gasquet, B. (dir.), 2018. *Sociologues en quête de religion*. Rennes, Presses universitaires de Rennes.
- Béraud, C., 2021. *Le catholicisme français à l'épreuve des scandales sexuels*. Paris, Seuil.
- Berger, P., 1999. "The Desecularization of the World: A Global Overview," in Berger P., (dir.), *The Desecularization of the World: Resurgent Religion and World Politics*. Grand Rapids (MI), William B. Eedmans.
- Berger, P., Davie, G., Fokas. E., 2016. *Religious America, secular Europe? : a theme and variations*. Abingdon, Oxon, Routledge.
- Bianco, J-L., 2016. *La France est-elle laïque ?*. Ivry-sur-Seine, Les Éditions de l'Atelier / Éditions Ouvrières.
- Blancarte, R., 2000. *Laicidad y valores en un Estado democrático*. México, El Colegio de México.
- Blasi, A-J., 2014. *Sociology of Religion in America. A History of a Secular Fascination with Religion*. Leiden-Boston, Brill.
- Blasi, A-J., Giordan, G. (ed.), 2015. *Sociologies of Religion. National Traditions*. Leiden-

- Boston, Brill.
- Boffard, T., 2001. « Combat pour l'école (Lyon, 1870-1880). La laïcisation de l'enseignement public », in *Cahier d'histoire*, t.46, n°3/4, pp.425-462.
- Bouchard, G., Taylor, Ch., 2008. *Fonder l'avenir. Le temps de la conciliation*. Québec, Commission de consultation sur les pratiques d'accommodement reliées aux différences culturelles.
- Brewer, J-D., 2007 "Sociology and Theology Reconsidered: Religious Sociology and the Sociology of Religion in Britain," in *History of the Human Sciences*, 20, pp.7-20.
- Budd, S., 1973. *Sociologists and Religion*. London, Collier Macmillan.
- Cabanel, P., 2003. *Le Dieu de la République. Aux sources protestantes de la laïcité (1860-1900)*. Rennes, Presses Universitaires Rennes.
- Catto, R., 2015. "Sociology of Religion in Great Britain: Interdisciplinarity and Gradual Diversification," in Blasi, A-J., Giordan, G. (ed.), *Sociologies of Religion. National Traditions*. Leiden-Boston, Brill, pp.107-131.
- Charlas, J.-M., 2014. « La Tour Métallique, Une provocation anticléricale ? », in Durand, J.-D. (éd.), *Fourvière. L'âme de Lyon*. Strasbourg, La Nuée Bleue, p.331.
- Chevandier, Ch., 2007. « Laïciser les hôpitaux. Les rythmes de la société et du politique », in Weil, P., (dir.), *Politiques de la laïcité au XX^e siècle*. Paris, PUF, pp.373-389.
- CISR., 1969. *Types, dimensions et mesure de la religiosité: Actes de la 9ème Conférence internationale – Montréal 1-4 Août 1967*. Rome, CISR.
- Croze, A., 1933. *Les sœurs hospitalières des hospice civils de Lyon*. Lyon, M. Aucun & Cie.
- Cuchet, G., Pelletier, D., 2016. « Claude Langlois et le « moment Créteil » de l'histoire religieuse contemporaine », in Langlois, Cl., *Le continent théologique. Explorations historiques*. Renne, Presses universitaires de Renne, pp.7-15.
- Debray, R., 1990. « La laïcité. Une exception française », in *Genèse et enjeux de la laïcité. Christianismes et laïcité*. Genève, Labor et Fides, pp.199-208.
- Delahaye, Ch., 2014. *La laïcité à l'hôpital*. Paris, Parole et Silence.
- Desroche, H., 1971. « Une étape. La XI^e Conférence internationale de Sociologie religieuse Opatija (Yougoslavie), 20-23 septembre 1971 », in *Archives de sociologie des religions*, 32, pp.3-8.
- De Vaucelles, L., 1971. « *Le Nouvelliste de Lyon* » et la défense religieuses (1879-1889). Paris, Les Belles Lettres.
- Diebolt, E., 1990. *La Maison de santé protestante de Bordeaux (1863-1934). Vers une conception novatrice des soins et de l'hôpital*. Toulouse, Édition Érès.
- Dobbelaere, K., 1968. "Trend Report on the State of the Sociology of Religion: 1965-1966," in *Social Compass*, 15 (4), pp.329-365.
- Dobbelaere, K., 2002. *Secularization: an analysis at three levels*. Brussels: PIE.
- Dobbelaere, K., 2008. « De la sécularisation », in *Revue théologique de Louvain*, 39(2), pp.177-196.
- Dobbelaere, K., 2009. « Laïcisation, forme manifeste de la sécularisation » in Foret F.,

- (dir.), *Politique et religion en France et en Belgique*. Bruxelles, Éditions de l'Université libre de Bruxelles, pp.31-46.
- Dupeux, G., 1969. « Les luttes politiques », in Desgraves, L. et Dupeux, G. (dir.), *Bordeaux au XIXe siècle*. Fédération historique du Sud-Ouest, pp.323-345.
- Dupeux, G., 1975. « L'immigration britannique à Bordeaux au XIXe siècle et au début du XXe », *Bordeaux et les Iles britanniques du XIIIe au XXe siècle*. Bordeaux, Fédération Historique du Sud-Ouest, pp.145-153.
- Dupont, M., Ramalho, F-S., 2010. *L'assistance publique hôpitaux de Paris*. Paris, PUF.
- Encrevé, A., 1998. « Les protestants réformés face à la laïcisation de l'école au début des années 1880 », in *Revue d'histoire de l'Église de France*, 212, pp.71-96.
- Faure, O., 1981. *Genèse de l'hôpital moderne. Les hospices civils de Lyon de 1802 à 1845*. Paris, Éditions du CNRS.
- Faure, O., 2006. « Les religieuses dans les petits hôpitaux en France au XIXe siècle », in Lalouette, J., (dir.), *L'hôpital entre religions et laïcité. Du moyen âge à nos jours*. Paris, Letouzey & Ané, pp.59-72.
- Floret, M-C., 2005. « La laïcisation aux hospices civils de Lyon », in *Revue de la Société française d'histoire des hôpitaux*, n°119, pp. 29-42.
- Fortier, V., Gonzalez, G. (dir.), 2022, *Revue du droit des religions*. n°13, « Dossier. La loi confortant le respect des principes de la République ».
- Garden, M., 1984. « Le patrimoine immobilier des Hospices civils de Lyon, 1800-1914 », in *Cahiers d'histoire*, t. XXIX, n°2-3, pp.119-134.
- Gateaux-Meddecier, J., 1989. *Bourneville et l'enfance aliénée. L'humanisation du déficient mental au XIXe siècle*. Paris, Centurion [= 2003. *Bourneville, La médecine mentale et l'enfance*. Paris, Harmattan].
- Ginestous, E., 1946. *Histoire politique de Bordeaux sous la IIIe République*. Bordeaux, Édition Bière.
- Goddijn, H., 1958-59. « La portée et le développement de la théorie en sociologie religieuse », in *Sociaal Kompas*, 6 (1), pp.18-31.
- Godin, H., Daniel, Y. 1943. *La France pays de mission?*. Lyon, Édition de l'Abeille.
- Gontard, M., 1958. « Une bataille scolaire au XIXe siècle. L'affaire des écoles primaires laïques de Lyon (1869-1973) », in *Cahier d'histoire*, fascicule 3, pp.269-294.
- Guillaume, P., 2000. *Les hospices de Bordeaux au XIXe siècle, 1796-1855*. Bordeaux, Les Études hospitalières éditions.
- Guillaume, P., 2006. « La laïcisation rampante des hôpitaux de Bordeaux », in Lalouette, J., (dir.), *L'hôpital entre religions et laïcité. Du moyen âge à nos jours*. Paris, Letouzey & Ané, pp.103-116.
- Hurd, E. S., 2008. *The Politics of Secularism in International Relations*. Princeton, Princeton University Press.
- Imbert, J., (dir.), 1982. *Histoire des hôpitaux en France*. Toulouse, Privat.
- Larkin, M., 1974. *Church and state after Dreyfus affair: the separation issue in France*. London: Macmillan.

- Lassave, P., 2019. *La sociologie des religions. Une communauté de savoir*. Paris, Édition EHESS.
- Lassave, P., (dir.), 2020. *Cinq vies de recherche. À la naissance des Archives*. No Hors-série de "Archives de sciences sociales des religions", Paris, Éditions de l'École des hautes études en sciences sociales.
- Lalouette, J., 1991. « Expulser Dieu : la laïcisation des écoles, des hôpitaux et des prétoires », in *Mots*, n°27, pp. 23-39.
- Lalouette, J., (dir.), 2006. *L'hôpital entre religions et laïcité. Du moyen âge à nos jours*. Paris, Letouzey & Ané.
- Lazarsfeld, P. F., 1973. *Main Trends in Sociology*. London, George Allen and Unwin Ltd.
- Léonard, J., 1982. *La médecine entre les savoirs et les pouvoirs. Histoire intellectuelle et politique de la médecine française au XIX^e siècle*. Paris, Aubier-Montaigne.
- Léonard, J., 1992. « Femmes, religion et médecine. Les religieuses qui soignent » in *Médecines, malades et société dans la France du XIX^e siècle*. Paris, Science en Situation, pp.33-61.
- Leroux-Hugon, V., 1992. *Des saintes laïques. Les infirmières à l'aube de la Troisième République*. Paris, Sciences en situation.
- Lévy, I., 2011. *Menaces religieuses sur l'hôpital*. Presse de la Renaissance, Paris.
- Luckmann, Th., 1963. *Das Problem der Religion in der Modernen Gesellschaft: Institution, Person und Weltanschauung*. Freiburg, Rombach.
- Luckmann, Th., 1965. "Neuere Schriften zur Religionssoziologie," in *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, 12 (2), pp.315-326.
- Maclure, J., Taylor, Ch., 2010. *Laïcité et liberté de conscience*. Paris, La Découverte.
- Martin, D., 1978. *A General Theory of Secularization*. Oxford, Blackwell.
- Martineaud, J-P., 2003. *Les ordres religieux dans les hôpitaux de Paris. Les congrégations hospitalières dans les hôpitaux de l'Assistance publique à Paris : des Fondations à la Laïcisation*. Paris, Harmattan.
- Mathieu, S., 2007. « Quelle laïcisation de la médecine française au XIX^e siècle ? », in Weil, P., (dir.), *Politiques de la laïcité au XX^e siècle*. Paris, PUF, pp.353-371.
- Mathiez, A., 1903. *La Théophilanthropie et le culte décadaire. Essais sur l'histoire religieuse de la Révolution. 1796-1801*. Paris, Félix Alcan.
- Matthieu, B. (éd.), 2014. *Émile Durkheim à Bordeaux, 1887-1902*. Bordeaux, Édition Confluences.
- Maurice, R., 1959, *Essai sur l'évolution des questions hospitalières. De la fin de l'ancien régime à nos jours*. Saintes, Imprimerie Delavaud.
- Mauss, M., 1968. « Philosophie religieuse, conceptions générales » (1904), in *Œuvres I. Les Fonctions sociales du sacré*. Paris, Édition de Minuit, pp.93-94.
- Mayeur, J-M., 1966. *La séparation de l'Église et de l'État*. Paris, Julliard.
- Méjan, L-V., 1959. *La Séparation des Églises et de l'État. L'œuvre de Louis Méjan, premier directeur de l'administration autonome des cultes*. Paris, PUF.
- Milot, M., 2002. *Laïcité dans le nouveau monde. Le cas du Québec*. Paris, Brepols.

- Milot, M. (éd.), 2009. *Archives de sciences sociales des religions*. n°146, numéro spécial « Laïcité dans les Amériques ».
- Nagai, N., 2002. *Les conseillers municipaux de Paris sous la Troisième République, 1871-1914*. Paris, Publications de la Sorbonne.
- Nérin, J-P., 1993. *Hôpitaux et Hospices de Bordeaux à la Belle Époque*. Bordeaux, Les Dossiers d'Aquitaine.
- Pacteau de Luze, S., 1999. *Les protestants et Bordeaux*. Bordeaux, Mollat.
- Poirier, J., Signoret, J-L. (dir.), 1991. *De Bourneville à la sclérose tubéreuse. Un homme. Une époque. Une maladie*. Paris, Flammarion.
- Portier, Ph., 2003. « De la séparation à la reconnaissance. L'évolution du régime français de laïcité », dans Armogathe, J-R., Willaime, J-P., (dir.), *Les mutations contemporaines du religieux*. Paris, Brepols.
- Portier, Ph., 2016a. *L'État et les religions en France. Une sociologie historique de la laïcité*. Rennes, Presses universitaires de Rennes.
- Portier, Ph., 2016b. « Le « moment laïcité » dans l'œuvre d'Émile Poulat », in *Archives de sciences sociales des religions*, 176, pp.89-97.
- Portier, Ph., 2019. « Introduction. Une brève histoire du GSRL », in Baubérot, J., Willaime, J-P., Portier, Ph. (dir.), *La Sécularisation en question. Religions et laïcités au prisme des sciences sociales*. Paris, Classiques Garnier, pp.15-33.
- Poulat, É., 1987. *Liberté, Laïcité. La guerre des deux France et le principe de modernité*. Paris, Cerf-Cujas.
- Poulat, E., 1990. « La CISR de la fondation à la mutation : réflexions sur une trajectoire et ses enjeux », in *Social Compass*, 37(1), pp.11-33.
- Poulat, É., 1994. « Catholiques sans Église », in *Catholica*, n°43, pp.59-65.
- Prevosto, J., 1979. « Les élections municipales à Lyon de 1900 à 1908 », in *Cahier d'Histoire*, t. XIV, n°3, pp.49-78.
- Pruvot, S., 2022. *Conversations avec le Président. Sur les Dieux, la France et la République*. Paris, Les Éditions du Cerf.
- Robinson, J. A. T., Edwards, D. L., (ed.), 1963. *The Honest to God Debate*. London, SCM Press.
- Robertson, R., 1971. "Sociologists and Secularization," in *Sociology*, 5(3), pp.297-312.
- Rochaix, M., 1996. *Les questions hospitalières : de la fin de l'Ancien Régime à nos jours*. Paris, Berger-Levault.
- Sarkozy, N., 2004. *La République, les religions, l'espérance*. Paris, Les Édition du Cerf.
- Schultheiss, K., 2001. *Bodies and Souls. Politics and the Professionalization of Nursing in France, 1880-1922*. Cambridge, Massachusetts, London, Harvard University Press.
- Séguy, J., 1969. « Berger (Peter L.) The Social Reality of Religion », in *Archives de Sciences Sociales des Religions*, 28, p.178.
- Séguy, J., 1970. « Sociologie de la connaissance et sociologie des religions », in *Archives de Sciences Sociales des Religions*, 30, pp.91-107.

- Stasi, B., 2003., *Commission de réflexion sur l'application du principe de laïcité dans la République. Rapport au président de la République*. Paris, Présidence de la République.
- Taylor, B., 1994. "The Anglican Clergy and the Early Development of British Sociology," in *The Sociological Review*, 42, pp.438-451.
- Thivend, M., 2006. *L'École républicaine en ville. Lyon, 1870-1914*. Paris, Belin.
- Tschannen, O., 1992. *Les théories de la sécularisation*. Genève, Droz.
- Weil, P., (dir.), 2007. *Politiques de la laïcité au XX^e siècle*. Paris, PUF.
- Willaime, J-P., 2008. *Le retour du religieux dans la sphère publique. Vers une laïcité de dialogue et de reconnaissance*. Lyon, Olivétan.

論文の内容の要旨

論文題目 フランス近現代史における政教関係の諸相
 —病院のライシテ化にみる複数性と連続性—

氏 名 田 中 浩 喜

本論文の目的は、フランス近代史における政教関係の特徴を解明することにある。フランスはしばしばライシテという厳格な政教分離を国是に掲げているとされる。しかし、フランス近代史上の政教関係には、厳格な「分離」という言葉だけでは十分に捉えきれない複数性がある。本論文の中心的な主張は、フランスのライシテには「排除」「管理」「選別」という三つの基本モチーフが存在するというところにある。本論文では、19世紀末から20世紀初頭を実現された病院のライシテ化を主な事例にこれを論証する。19世紀のフランスでは、医師や看護師と並んで司祭や修道女が公立の病院で働いていたが、19世紀末に第三共和政が成立して世俗的な共和国の実現を目指す共和派が政権を握ると、病院のライシテ化を求める機運が高まる。本論文では、パリ、リヨン、ボルドーの事例を取り上げ、病院のライシテ化が目指された結果、各都市で異なるライシテのあり方が実現されたことを指摘する。

本論文には大きく三つの特徴がある。第一の特徴は、病院の事例を扱うことである。従来の研究は、ライシテの歴史を描く際には主に、学校のライシテ化に注目してきた。これに対して、本論文では2000年代以降学術的関心を集めながらも、いまだ十分に論じられていない病院のライシテ化の事例を取り上げる。第二の特徴は、地域性を重視することである。従来の研究は、ライシテの歴史をナショナルな枠組みで描いてきた。これに対して、本論文ではパリ、リヨン、ボルドーを事例に取り上げ、各都市の地域的特殊性が病院のライシテ化の

展開にいかなる影響を与えていたのかを解明する。第三の特徴は、承認の両義性に注目することである。近年の研究では、現代のフランスには宗教の公共的な役割を認める「承認」のライシテがみられるという指摘がなされることがある。これに対して、本論文では一見「承認」にみえるライシテの裏側に潜む「管理」や「選別」の力学を強調する。

第一部の理論編では、ライシテ及びライシテ化という語について論じる。第一章では、ライシテ研究の世界的拠点である「社会・宗教・ライシテ研究グループ」(GSRL)によるライシテの定義を批判的に取り上げる。ジャン・ボベロが1995年に設立したGSRLは、ライシテを「自由」「平等」「中立」「分離」などの要素に分けて定義することを提案している。その定義では、ライシテはなにより自由と平等を「目的」とする原理であり、中立と分離はその「手段」にすぎないとされる。本章では、ライシテの解釈自体が争点化し、共和主義的理解と自由主義的理解が対立している現代のフランスにおいて、GSRLの定義は自由主義的な規範性を帯びていると指摘する。本論文では、ライシテを自由の理念とする立場に共感しながらも、その規範性から距離を取るために、ライシテの語を広く政教関係、より具体的には宗教(宗教者や宗教団体などの社会的アクター)に対する政治(国家や地方自治体などの社会的アクター)の関わり方という意味で用いることを提案する。

第二章では、宗教社会学における世俗化論の形成過程を跡付けたあと、世俗化とライシテ化の概念上の区別について論じる。西洋の宗教社会学では1960年代から70年代にかけて世俗化論がパラダイムを築いた。これまでの学説史は、世俗化論が多様な批判に晒されてきたことを強調してきたが、そもそもなぜ世俗化論が興隆したのかについてはあまり語られてこなかった。そこで本章では、世俗化論がパラダイムを築いた背景には、理論的で脱宗派的な宗教社会学を志向する研究者の学問的な問題意識と、世俗社会に対するキリスト教の適応を志向する宗教者の宗教的な問題意識があったことを指摘する。そのうえで、世俗化論の精緻化を図るために、世俗化を社会文化面、ライシテ化を政治制度面での変化と区別する近年の議論を詳しく紹介する。そして本論文ではライシテ化の語を、制度や政策を通して宗教に対する政治の優位性が確立される過程という意味で用いることを提案する。

第二部の事例編では、主に第三共和政前期のパリ、リヨン、ボルドーにおける病院のライシテ化について論じる。第三章では、首都パリの事例を取り上げる。パリでは、共和派の政治家で医師のデジレ＝マグロワール・ブルヌヴィルによって、大部分の病院が1880年代にライシテ化された。本章では、パリの病院のライシテ化の特徴は、病院に勤めていた修道女を「追放」と同時に、それを世俗看護婦で「代替」するところにあったことを明らかにする。ブルヌヴィルを筆頭とする急進共和派のパリ市議会は、パリの病院を管轄する公共厚生局に働きかけて修道女や司祭を病院から「追放」とともに、世俗看護学校を設立して修道女を「代替」しうる世俗看護婦を育成したのである。この「排除型」のライシテは、当時から医療現場の反発を招いていたが、公共厚生局が財政面でも政治面でも市議会と緊密に連携していたという、パリの地域的特殊性がそれを実現可能にしていたといえる。

第四章では、フランス第二の都市リヨンの事例を取り上げる。パリの前例を受けて、リヨンでも病院のライシテ化を求める機運が高まった。しかし、第三共和政前期のリヨンではパリとは異なり、病院から宗教者が追放されておらず、世俗看護婦による修道女の代替もなされていない。本章では、リヨンの病院のライシテ化の特徴は、病院で働く修道女に対する「監視」を強化すると同時に、彼女たちを資源として「利用」しようとするところにあったと指摘する。リヨンでは病院を管轄する運営総会のアルマン・サブランの説得により、修道女の

排除ではなく「監視」を重視する声が優勢になるが、そこには修道女を低賃金で働く経済資源、病院に権威を与える象徴的資源として「利用」する思惑があった。この「管理型」のライシテは、リヨンの病院で働く修道女が特殊な伝統と特徴を持ち、また運営総会が市議会から財政面で自立していたという、リヨンの地獄的特殊性により実現可能になっていた。

第五章では、フランス南西部の都市ボルドーの事例を取り上げる。パリとリヨンに続いてボルドーでも 1900 年代になると病院のライシテ化が議論されるようになった。だが、ボルドーの病院でも第三共和政前期の間、宗教者の追放や代替はなされていない。本章では、ボルドーの病院のライシテ化の特徴は、カトリックの修道女を「敬遠」とすると同時に、プロテスタントと「協働」しながら看護の近代化を押し進めたところにあると論じる。20 世紀初頭のボルドーでは、共和派の政治家ポール＝ルイ・ランドが看護改革を進めたが、そこでは看護学校を世俗女性向けと修道女向けに分けてカトリックの修道女を「敬遠」する一方、プロテスタントの医師アナ・ハミルトンと「協働」してイギリス流の看護教育を取り入れる試みがなされた。この「選別型」のライシテには、歴史的にイギリスと関係が深く、プロテスタントが大きな存在感を持っていたという、ボルドーの地獄的特殊性が反映されている。

このように第二部では、第三共和政前期のパリ、リヨン、ボルドーにおける病院のライシテ化を事例に、「排除」「管理」「選別」というライシテの基本モチーフを析出する。各章の小結ではいくつか事例を紹介しながら、これらのモチーフがいずれもフランス近現代史を通して観察しうるものであることを示す。これらの議論を踏まえ、さらに第六章では、現代フランスにおけるエマニュエル・マクロン大統領の宗教政策を取り上げ、「管理」「選別」というモチーフは現代のライシテを理解するうえでも重要であることを改めて強調する。マクロン大統領は就任以来、カトリック教会との「対話」を重視してきた。これは一見「ポスト世俗（主義）」的な「承認」のライシテにみえるが、同時に過激派対策という名目で、イスラーム全般に対する「監視」の強化が進められてきた。

本論文の議論からは、フランスの近代的な政教関係には、「排除」「管理」「選別」という三つの基本モチーフがあることが示される。第三共和政前期のパリ、リヨン、ボルドーにおける病院のライシテ化は、各都市の地獄的特殊性を反映して異なる経緯を辿ったが、そこで実現されたライシテには、フランスの近現代史を通して観察可能な基本モチーフを見出すことができるのである。本論文が示すのは、政治が宗教に対する優位性を確立した近代フランスにおいて、政治が宗教を統制する様態の諸相である。結論部では、こうした近代的な政教関係の形成過程をさらにメタレベルの近代化論に接続し、近代における「宗教と社会」に関する従来の世俗化論を批判しながら、近代における「宗教と政治」に関する一般理論を構築すること、政治主導で実現された病院のライシテ化を一般の人びとがいかに経験したのかを解明すること、そして本論文から得られたフランスの政教関係に関する知見を、「批判的比較宗教学」の観点から国際比較に応用することが、今後の課題として提示される。